

シニアのシニアによるシニアのための会報誌

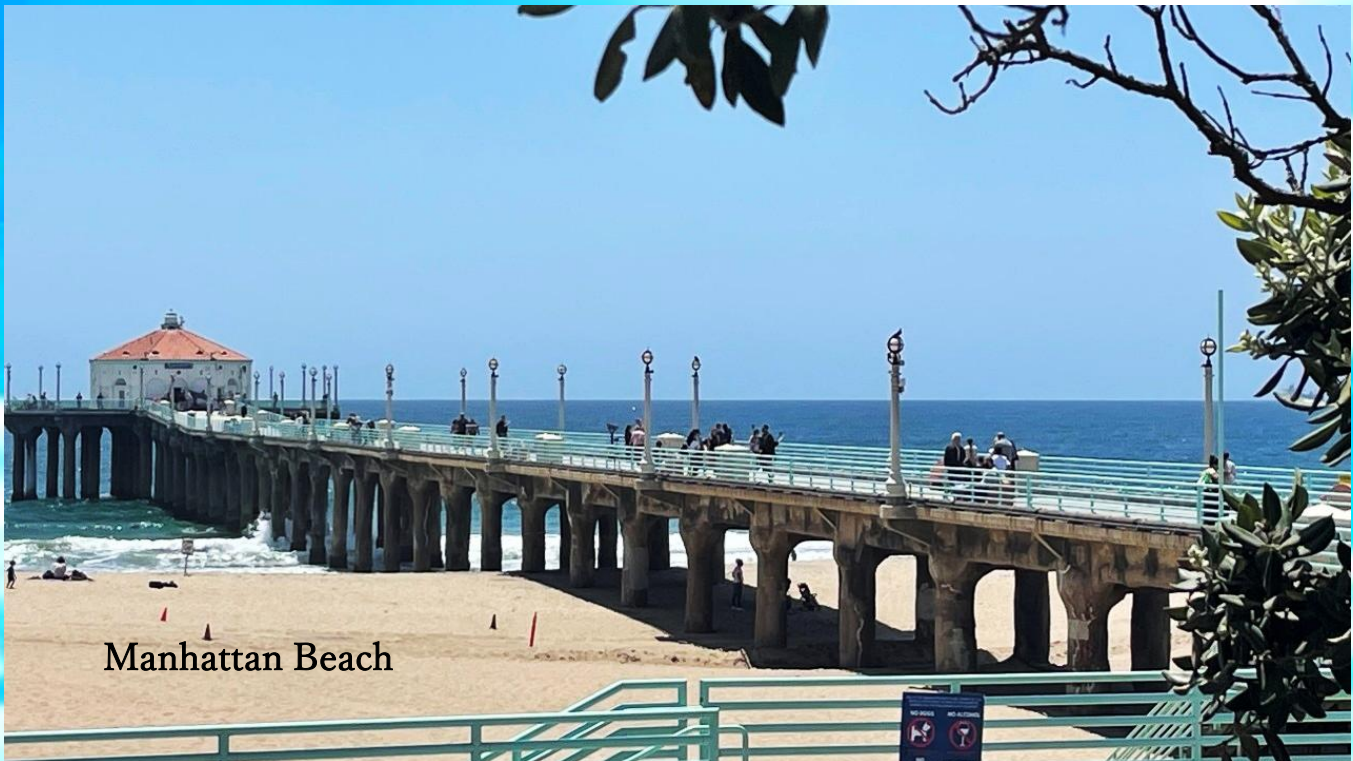
2026

チャランポランの会

夢と笑いの

夏 25号

かわら版



特集 * 恋の話 (初恋・失恋)

チャランポランの会は何をする会？

チャランポランの会は、シニアを応援する会です。
高齢者の貴重な経験と、そこから得た知識を共有し、
次世代に伝えていく媒体になることです。

- ※ 会報誌「かわら版」（年3～4回発行）を通して、シニアの方々に元気にしていきます。
- ※ 交流の場を提供し、楽しみや生きがいを持てるようにします。
- ※ シニア向けの講演会、イベントを開催していきます。（当分は米国）

入会ご希望の方

チャランポランの会には世界中のシニアの方であれば、
どなたでも会員になれます（未来のシニアの方も歓迎）

- ※ 年会費： 一切なし
- ※ 手続き： 下記のインフォメーションをご記入の上、
郵送または Email にてお申し込みください。
- ※ 氏名 * 住所 * 電話番号 * かわら版を何で
お知りになりましたか * 出身地 * E メールアドレス
(オプション) * 生年月日 (オプション) をお書きの上、
次の送付先にお送り下さい。

【郵送先】 CharanPoran USA
4733 Torrance Blvd., #768
Torrance, CA 90503

【Eメール】 katsm2390@gmail.com

「かわら版」創刊号から今日に至るまで多くの読者の皆さまから心温まるお言葉と共にドネーションを頂いております。ありがとうございます。心よりお礼申し上げます。この会は連邦政府から NPO (Non-Profit Organization) 非営利団体として認可(501.C.3)を受けております。

「かわら版」への投稿方法

- 川柳・俳句・短歌：お一人一句一首
 - お便りコーナー：200字以内が歓迎ですが、超えても結構です。
住所、氏名、年齢（オプション）、電話番号、Email Address を明記の上、郵送または E メールでお送りください。なお、都合により内容を割愛、一部変更させて頂く場合もございますのでご了承下さい。
- 投稿が多数の場合は「かわら版」編集部で選定の上、掲載または次号への持ち越しとさせていただきます。

「かわら版」へのご意見・ご感想をお気軽にお寄せください。
CharanPoran USA まで郵送、または E メールにてお送り下さい。



会の名称

『チャランポラン』

私達、発起人は二十代から六十代まで長い間、一応真面目に仕事し、子供を育て、一社会人・一家庭人としてそれなりの責任を果たして来ました。ふと気が付いて見ると、もう高齢者です。昔の元気はなく、体力も落ちました。これからの人生をいかに生きるかと考える時、やはり明るく元気に過ごしたいものです。それには今までの常識の枠を離れ、自由な新しい発想や考え方で生きるのが良いのではと思います。

その理想が「チャランポラン」です。一見、「真面目や責任」とは対極にある考えのようですが、今まで以上に豊かに生きるために必要なキーワードかなと思います。認知症防止のためにも、是非皆さん、一緒に楽しく、チャランポランに生きましょう！



チャランポランの会

運営委員・かわら版

土田三郎 宮里 カツ 太田 勉
コグチ友紀 鶴亀 彰

CharanPoran USA
4733 Torrance Blvd., #768
Torrance, CA 90503 U.S.A.

☎ (310)600-5612

(メッセージを必ずお残し下さい)

Katsm2390@gmail.com
www.charanporanusa.org

在ロサンゼルス日本国総領事館便り

首席領事 神谷 直子

昨年夏、当地への赴任が決まった際、友人たちからドジャーズの試合を現地で観戦できることを、ずいぶんとうらやましがられました。ロサンゼルスといえば、やはり大谷選手が活躍する街というイメージが強いようです。実際、私自身もドジャー・スタジアムで大谷選手、山本選手、佐々木選手の活躍を目の当たりにした時には大いに興奮しました。試合観戦というよりも、まるでエンターテインメントショーを楽しんでいるような不思議な感覚でした。また最近、エンゼル・スタジアム・オブ・アナハイムでロサンゼルス・エンゼルの試合を観戦する機会もありました。残念ながら菊池選手のご活躍を拝見することはできませんでしたが、ドジャーズとはひと味違うアットホームな雰囲気の中で、観客との近い距離感に心地よさを感じました。

当地では、プライベートでも野球に限らず様々なスポーツを楽しむことができますが、総領事館の業務においても、スポーツの世界で活躍されている日本人・日系人の方々と接する機会が多くあります。すでに第一線でご活躍の方から、今後のご活躍が期待される方まで、総領事館ではそうした日本人・日系人のアスリートやスタッフの皆さんを応援したいとの思いから、SNSを通じて応援するプロジェクトを実施中です。

私が直接お会いした方の中で、ぜひ皆さんにご紹介したいのが、USC 女子サッカーチームで活躍する水本華選手です。高校時代は日本のユースチームに所属され、2023 年からは USC サッカー部の一員として当地で大学生活を送っています。水本選手はたいへん明るく親しみやすい方でしたが、サッカーへの強い情熱と真剣な眼差しが印象的でした。皆さんの周りにも、ぜひご紹介いただきたいアスリートやスタッフの方がいらっしゃいましたら、総領事館までお気軽にご連絡ください。皆さんの情報をお待ちしております。

在ロサンゼルス日本国総領事館からのお知らせ

1) 7月1日(水)の申請分から、旅券の手数料が引き下げられます。

・オンライン申請でクレジットカード払いの場合、例えば、有効期間が10年の旅券は現行の15,900円から8,900円に引き下げられます。窓口申請でドル現金でお支払いの場合は、現行の109ドルから62ドルに引き下げられます。

・旅券の新しい手数料(円)は、外務省ホームページに

掲載しています。また、在外公館における手数料(現地通貨)については、各在外公館ホームページに掲載していますので、申請の際に申請先の在外公館ホームページをご確認ください。

[https://www.la.us.emb-](https://www.la.us.emb-japan.go.jp/itpr_ja/m02_01_07.htm)

[japan.go.jp/itpr_ja/m02_01_07.htm](https://www.la.us.emb-japan.go.jp/itpr_ja/m02_01_07.htm)

・当館では、通常、旅券の申請から交付まで1か月程度の日数を要しますが、7月1日以降しばらくの間は、旅券を申請する方が大幅に増加することが見込まれ、1か月半程度の日数を要する見込みですので、十分に時間的余裕をもって申請いただくようお願いします。

2) オレンジカウンティで、領事出張サービスを実施します。

・オレンジカウンティの在留邦人の皆様からのご要望を受け、以下のとおり実施します。ご利用は予約制です。詳細は当館ホームページでご確認ください。

申請：9月10日(木)午前10時～午後3時

(予約受付は8月20日～9月3日)

交付：11月5日(木)午前10時～午後3時

(予約受付は10月20日～10月22日)

【オレンジカウンティにおける領事出張サービス】

[https://www.la.us.emb-](https://www.la.us.emb-japan.go.jp/pdf/OCShuccho0910_1105.pdf)

[japan.go.jp/pdf/OCShuccho0910_1105.pdf](https://www.la.us.emb-japan.go.jp/pdf/OCShuccho0910_1105.pdf)

3) 在留届

「在留届」とは、海外に3カ月以上滞在する日本人に、旅券法によって提出が義務づけられている届出です。在外公館では、事故や事件等が発生した際、提出された「在留届」をもとに皆様の所在地や緊急連絡先を確認して援護活動を行います。また、在留届に記載されたEメール宛に生活や安全に関する情報をメールで配信しています。当館管内にお住まいの方は、「在留届」の提出をお願いします。また、ご帰国・ご家族の呼び寄せ・同居家族の追加あるいは移転等により届出内容に変更があった場合には「変更届」の提出をお願いいたします。詳細は当館ホームページをご確認ください。

【在留届】

[https://www.la.us.emb-](https://www.la.us.emb-japan.go.jp/itpr_ja/m02_02.htm)

[japan.go.jp/itpr_ja/m02_02.htm](https://www.la.us.emb-japan.go.jp/itpr_ja/m02_02.htm)



首席領事 神谷直子
(かみたに なおこ)

私の初恋

近藤 敬 加州フラトン在住

私の初恋は、坂出の香川大学附属小学校六年のとき、同級の清水禎子さんである。

勉強がよくでき、小柄で、声も控えめな人だった。教室のざわめきの中でも、その周囲だけがわずかに静まっているように感じられた。

私は、ただ遠くから彼女を見ていた。机を並べたこともなく、特別な言葉を交わした記憶もない。同じ空間にいる——それだけで、すでに充分であったのかもしれない。

卒業と同時に、父の転勤で私は坂出を離れ隣町の高松に移った。それきりである。

六年後の十八歳の春、新聞地方版の大学合格者欄に彼女の名を見つけた。神戸女学院。
私は京都の大学に。距離としては、決して遠くはない。帰省の汽車の中で、あるいは街の片隅で、遭遇することもあり得たはずである。
だが、そうしたことは一度も起こらなかった。

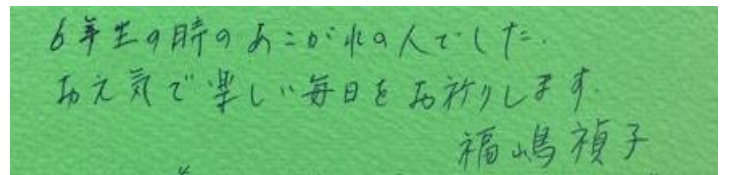
それから、二十四年の歳月が過ぎた。
横浜で、彼女の妹さんの家が同じ町内にあり、娘同士が同じクラスになった。
さらに彼女の母親が妹さんの家を訪れ、散策の折に偶然わが家の前を通りかかり、門札の名に気づいたという。私の母と彼女の母親とは、かつて坂出で親しくしていた。
いくつもの時間と場所を隔てていたはずの縁が、思いがけず、静かに結び直された。

東京在住の同窓の小さな集まりで、私は再び彼女と何度も顔を合わせた。
しかし、その距離は昔のままであった。
近づく理由もなく、遠ざかる必要もなかった。

そして、さらに二十八年が流れ、七十歳になった。
私の渡米を前に、旧友たちが伊豆で一夜の送別会を設けてくれた。
翌朝、寄せ書きを手渡された。その中に、彼女の言葉があった。
——六年生の時の あこがれの人でした。
その一行は、過ぎ去った時間の底に沈んでいたものを、音もなく掬い上げた。
私は、その事実を知らぬまま、長い年月を生きてきたのである。

朝の膳で、私は初めて彼女の隣に座った。言葉は多くを要しなかった。
ただ、「あなたのお母さんに発掘されて、うれしかった」とだけ伝えた。

長い時間の果てに、触れることなく保たれてきたものが、ようやく静かに、そのままの形で在ることを許されたように思えた。



熊の命

スミコ・コール トーレンス在住

もうどれ程になるだろう。日本では、お腹を空かせた熊が冬眠もせず農家や町に出現して、人間に被害を負わせ続け、大変危険になり、今は見つけ次第親も子も銃で駆除されていると毎日の如く TV で放映されている。これは「目には目を」の戦いで今後どれだけ続くか計り知れない。だが、この調子だとやがて日本から熊はいなくなり、未来の子孫たちが熊の剥製を見て「昔、日本にいた熊という動物が此れ」で終るのだろうか何か寂しい。

そこで、私は考えてみた。そして夢をる…。日本の国の周囲には数え切れないほどの島がある。その中で出来るだけ遠く、木々が生い茂った大きい島を捜して、見つけた熊を麻醉銃で眠らせその島に移住させる。季節がくると、日本の北海道から沖縄までのナッツ類を集めてヘリコプターで山のてっぺんから落とす。熊が見落とした餌はそこで「ナッツの木」となって成長する。



Image Photo

どう？ この島を「熊島」と呼びたいが、何方か姓が同じならお気の毒なので「熊の島」と名づけても良いなあと時々空想して居る。

9歳の初恋と失恋

鶴亀 彰 カリフォルニア在住

恋と呼ぶにはまだ幼い小学3年生の時の淡い憧れの話です。私は同じクラスのＴちゃんが大好きになりました。色白で目がパッチリとした可愛い女の子でした。ふっくらとした頬と顔にはいつも笑顔と優しさがありました。頭も良く、クラスの人気者で、きっと私以外にも彼女に憧れた男の子はいたはずで

す。遊戯の時間に彼女の手に触れた日は一日中私は幸せでした。彼女と会えることが嬉しくて、サボらず毎日まじめに登校していました。楽しい日々でした。ところが事件が起きます。それは冬の寒い日でした。鹿児島県の漁村にある照島小学校という学校でしたが、南国とは言え、その2月の朝はとても凍えるような空気で、私達は授業中も机の下で両足を上下させたりして寒さに耐えていました。戦後すぐで私達は靴も無く、裸足で登校していました。

Ｔちゃんの机は私の一列前ですぐ斜め右でした。私は授業中も正面の先生や黒板よりは彼女の左側の顔を眺めていました。寒さのせいか、白い頬は赤みがさしており、それがまた美しいでした。ですが、その時です。異変が起こります。彼女の座っている椅子の下から、何やら白い湯気が立ち上がっています。彼女のすぐ後ろの席に座っていた女の子も気づきました。Ｔちゃんがオシッコを漏らしたのです。

きっと彼女は「もうすぐ、もうすぐ授業は終わる、そしたらトイレに走りこもう」と我慢していたのでしょう。泣き出した彼女に気づき、先生が「Ｔちゃん、どうしたの」と近づき、事情を察した先生はＴちゃんを抱きかかえるようにして教室を出て行きました。彼女以上に私も泣きたい気持ちでした。そして、どうしたとか、その事件をきっかけに私の彼女への憧れが消えたのです。もし誰かが彼女をいじめたりしたら、私は身体を張って守ったでしょう。お腹を空かしていたら、私のふかし芋を上げたでしょう。しかし、オシッコに対しては私はどうしたとか、正しい対応が出来ませんでした。冷淡でした。寛容的でもなく勇気もありませんでした。とても情けない男でした。今はとても後悔していますが、これが私が経験した初めての失恋でした。

これには後日談があります。この5月、私は母校を訪ねました。私の半分位の年齢の校長先生と教頭先生が迎えて呉れました。そこに30年余り勤務している図書館の司書の女性がいました。何と彼女は「Ｔさんは今もご健在ですよ。実はそのお孫さんが小学3年生で在校生ですよ」と驚くような話をしてくれました。運動場で赤い帽子に白シャツ、黒ズボンで走り回っている男の子が彼女の孫でした。76年前のあのオシ

コ事件以来、忘れていたはずのＴちゃんを私は潜在意識では忘れていなかったようです。

失 恋

青野 桂子 Rancho Palos Verdes, CA

所は日本、時は高度成長末期。社会人一年生の出勤初日、配属された課に足を踏み入れた時、真っ先に私の目を捉えたのが少し離れたデスクにいた K でした。ゆうに半世紀が過ぎた今もその情景は鮮やかです。ごく普通にネクタイを締めた白いワイシャツ姿だったので彼の何がそんなに私の目を惹いたのか分かりませんが、縁があったのでしょう。数週間後に初デート。先ずは K が、そして当時まだそれ程女性ドライバーは多くなかったのですが続いて私も運転免許証を取って二人であちらこちらと多くの場所に出かけました。一緒にいるだけでときめき、何をしてても嬉しかった。K に転勤辞令が出た時は二人とも狼狽えましたが、その後は週末に中間点で会う新幹線デートになりました。若かった私の初めての大人の恋は熱く燃えましたが、結婚が成就というなら、これは失恋に終わったのです。だからこそ竹内まりやの「駅」を聴いて思わず涙するという感動があると分かったのはずーっと後年のことです。



社員旅行 後列左から3番目が私
名古屋市郊外の海の家



入社2年目の私

初恋

ショージ・ミサエ Angel Fire, NM

初恋を思い出すと、私にとってそれは普通の女の子よりも遅く訪れた春だったことと認めざるを得ません。

小学校では二人の男の子に三年生まで虐められていました。四年生の時は、肺炎になって六か月間学校を休みました。学校は、完全に良くなるまで学校へ来ないようにと両親に伝えていたからです。その年、結局そろばんの授業を全部休むことになってしまいました。

そして無事、中学校への入学が決まった時は、それはワクワク、ドキドキでした。私たちはお揃



イメージ（本文と関係ありません）

いのピカピカの制服と靴を履き、新品で丈夫な革のカバンを持ち、肩までの新しい髪型(女の子)にして入学しました。

私が最もワクワクしたのは、他の町からの多くのニュー・フェイスに会え、新しい先生たちと出会えたことでした。私の担任の先生は、数学の先生で、中年で、少し偏狭で、あまり面白くなく、いつも同じベージュの三つ揃えスーツを着ていました。それに対して、私の美術の先生は若く、面白く、心が広く、二つ揃えのスーツにビーチサンダルを履いていました。彼は以前、大学生の時にサンフランシスコに三か月間滞在したことがあると話してくれました。美術の授業では、スケッチやお絵描きをしない時、彼はビートルズの曲をかけ、クラスメートの中にはアバやドナ・サマーの音楽をかける人もいました。

私はこの美術の先生に完全に夢中になってしまいました。私の手書きの書体も書道で習った美しい明朝体から、美術の先生が書いていた丸文字に変え、絵画やデッサンで賞をもらえるように一生懸命頑張りました。その頃から絵画や額縁の修復の仕方を学び始めたと思います。残念ながら、美術の先生は別のクラスの女の子、私の担任の数学の先生の娘が好きだと知りました。彼女は少し可愛くて、同じ年頃の女の子よりポインちゃんでした。私はたくさん泣きましたが、6か月後には初恋を乗り越えました。それからクラスで一番頭が良くて、スポーツマンで、とても面白いクラ

スメートに惹かれるようになりました。なぜか皆は、その彼を“月面”と呼んでいました。彼はニキビを手でつぶす癖があったので、顔が月の表面のようになっていたからです。

母が生前、私がニューヨークにいた40年前に彼“月面”が私の両親の家を訪ねてきたと教えてくれました。そして昨年、友人から彼は一度も結婚したことがなく、未だに独身であることを知らせてくれました。が、私はもう、まったくの新米シニアで、お婆ちゃんになってしまいました。

心の恋

宮里 かつ Torrance, CA

人間は色々な形で恋をする生き物と思う。異性／同性に恋をするのはもっとも自然で、誰しも一度、或いは複数の経験はあるだろう。

ある人は動物、私も、いや家族で愛犬のチャウチャウを14年間共に過ごしてきた時は「愛」に等しい。家族の一員として過ごしてきたが、14年の生涯を終えた時は家族中で号泣したことを今でも思い出す。



愛犬 Chestnut

この6月、咲かない花を捨てようかと思って矢先、突然開花した。ハワイに多いプルメリアだ。鉢植えのプルメリアは毎年5-6月には必ず開花しその美しさに毎日見とれていた。「おはよう、プルメリア！」と一人で挨拶して恋人に挨拶していた。然し、3年前くらいから咲かなくなり、そろそろ捨てようかと考えていた。丁度2泊3日と外泊して帰宅した。先ず、ベランダのドアを開けて空気を入れ替えた。すると、何と、



3年越しに咲いたプルメリア

プルメリアが4個咲いているのをこの目でみた。驚いた。

ハワイで家族と過ごした1970年代は私の心は第二の故郷と考えるくらい愛したハワイ生活。プルメリアの咲き誇るハワイ。正に心の愛が芽生えたプルメリアを、我家のベランダで味わえた瞬間であった。

私の人生の原点は8月15日

住山 弘 川越市 在住

私は終戦の詔勅（玉音放送）を朝鮮半島（現在の韓国）で聴いた。

その日は灼熱の太陽が降り注ぐ暑い日だった。先生と生徒たちは学年ごとに校庭に整列し、中央の台の上に置かれたラジオに向かって直立不動で立っていた。正午ちょうどに放送が始まった。天皇陛下の玉音放送は雑音の中から途切れ途切れに聞こえてきたが、正直なところ、何を話されているのかよく分からなかった。

放送が終わると、校長先生が沈痛な面持ちで私たちに告げられた。

「日本は降伏しました」

その言葉を聞いた瞬間、生徒たちは我慢しきれず泣き崩れた。若い女性の先生も泣いていた。

当時の私たちは「最後の一人になるまで戦うのだ」と教え込まれていた。

早朝、駅のプラットホームで小旗をふり出征兵士を見送り、夕方には戦死者の遺骨を迎えに再び並んだ。学校では午前中は普通の授業を受け、午後は軍事教練に励んだ。休日には数キロの道のりを歩いて山に登り、松の根を掘った。飛行機のプロペラを回すための油を取り出すためだと教えられていた。

私は「負けた」という現実を理解するまでにしばらく時間がかかった。悔しさと無念さが込み上げ、思わず嗚咽した。しかしその一方で、ほんの一瞬ではあったが「これで平和が来るのだ」という思いが心の中をよぎった。そして強く感じた。「このような悲惨な戦争を二度と繰り返してはならない」

「正義の戦争など存在しない」

この思いは、その後の人生を通じて私の心に深く刻まれることになった。

やがて私は、「世界の平和のために自分に何ができるのか」と考えるようになった。そして、人の命を守り、傷ついた人の苦しみを和らげることによって、少しでも平和へ貢献できると信じ、医学の道を志した。

私にとって8月15日は、単なる終戦の日ではない。平和の尊さを知り、自らの生き方を決定づけた人生の原点となった日なのである。



初恋？

波多江 美代子 ラグナ・ウッズ在住

先ず頭をよぎるのは、あのメロディー “砂山の砂に腹ばい初恋の痛みに ♪♪♪…” この歌です。石川啄木の詩集「一握の砂」の中の一首ですが、越谷達之助作曲によるこの曲は、聞いたり歌ったりし



座像 石川啄木

ているうちに私の声楽への進路に導いてくれた一曲でもあります。“初恋の‘痛みに遠く思ひ出づる日’”啄木の妻となり矢張り詩人の節子への甘くも、もう戻れない初恋の痛みを想起させられる詩で、短い曲ですが相当の歌唱力が求められる曲です。啄木の詩にふれたこの度もう一首 “ふるさとの山に向かい言うことなしふるさとの山はありがたきかな”

この山は盛岡市の名峰、岩手山であるらしいが、山と言えは私も思い浮かぶ65年位前の話し…。私の故郷は北アルプス連峰を臨む信州松本ですが、土地がら、かねてから交流があった神戸の大学の山岳部の男子学生が冬山登山のある年雪崩に巻き込まれグループの一人は亡くなり他のメンバーは奇跡の生還を成して地元の新聞に大きく報道されました。初恋の人、その人は生還者の一人であったわけですが、数日間泣いて過ごした可愛い高校生の女の子がいたのを思い出しました。



名峰 岩手山（盛岡）

シニアに優しく！

山口憲和 カリフォルニア州在住

先日、友人たちとドジャースタジアムへ野球観戦に行った時のことです。球場は大勢の観客で賑わい、売店や通路も人でいっぱいでした。そんな中、一人のおじいさんが席の周辺を行ったり来たりしながら、困った様子で歩き回っていました。

どうやらトイレへ行った帰りに、自分の席が分からなくなってしまったようでした。周囲を見回しても、ご家族の姿が見つからない様子で、とても不安そうでした。

その姿を見た日本から来ていた友人が、「大丈夫ですか？」と声を掛け、一緒に席を探してあげることにしました。席番号を聞きながら周囲を歩き回りましたが、なかなか見つかりません。広いドジャースタジアムの中では、同じような景色が続き、方向感覚も分からなくなってしまいます。

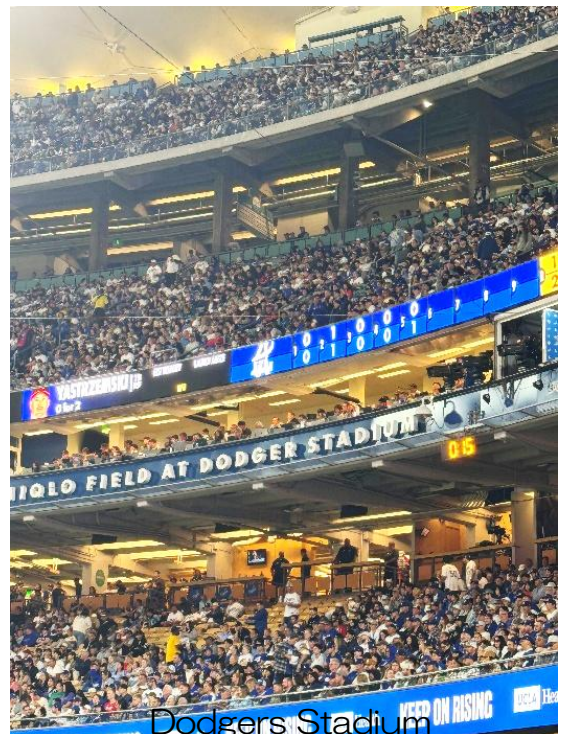
十五分ほど探したところで、係員の方に事情を説明し、おじいさんをお願いしたそうです。しかし、その後もおじいさんは通路を行ったり来たりしており、私たちも「無事にご家族と会えたかどうか」と気になって、なかなか試合に集中できませんでした。

それからしばらくして、ようやく遠くの席でご家族と再会できた様子が遠くから見えました。奥様と娘さんらしき方と並んで座る姿を見た時には、こちらまでホッとした気持ちになりました。それにしても、探していた列と実際に座った列はかなり離れていました。

シニア世代になると、広い施設や人混みの中で迷ってしまうことは誰にでも起こり得ることだと思います。特に球場や空港、大型ショッピングセンターなどでは注意が必要です。トイレへ行く際には、できれば付き添いの方と一緒に行動すること、そして席番号やエリアを書いた紙を持っておくことの大切さを改めて感じました。

それ以上に心に残ったのは、見知らぬおじいさんに自然に声を掛け、親切に案内していた友人の優しさでした。忙しい世の中ですが、困っている人にそっと手を差し伸べる気持ちは本当に大切だと感じました。

ちなみに、その日のドジャースは見事に勝利。大谷選手の活躍もあり、球場は大盛り上がりでした。勝利の嬉しさとともに、人の温かさも感じた一日となりました。



大谷翔平選手 （撮影：2つとも筆者）

シニアに優しいスポーツ！

孫と楽しむ グラウンド・ゴルフ

鶴亀 彰 チャランポランの会発起人

6月14日、ロミタ市にある西大和学園カリフォルニア校の校庭では賑やかな歓声が上がっていました。「ナイスショット!」「凄い、凄い、もうちょっとでホールインワン!」などの声と同時に大きな声援と明るい笑い顔が澄み切った青空の下で広がっていました。そこには8名の小学生と8名のシニアと数名の関係者の姿がありました。

ですが、これは皆様ご存じのゴルフではなく、「グラウンド・ゴルフ」という、ゴルフ経験の無い人でも、体力の無いシニアや子供達でもすぐに楽しめるスポーツなのです。ゴルフボールより少し大きいボールをクラブでポンと打ち、15メートルから50メートル先の金属製のホールにポコと入れるだけの、シンプルなゴルフです。車椅子の人でも楽しめ、公園でも校庭でも大きな駐車場でも、どこでも出来る素晴らしいスポーツです。団体戦で勝負を競うゲートボールと違い、もっと個人的で自由なゲームです。

このシニアにも孫世代の子供達にも優しいスポーツはシニアの健康長寿のために鳥取県湯梨浜町で生まれました。私はこのスポーツは家に引きこもりがちで外との接触が減りがちなシニアの人が外に出て、安全に身体を動かし、お喋りを楽しめる最高のスポーツだと思います。世代や言葉の違いなどを超えて親しくなれるスポーツです。

今回は小学2年生とチャランポランの会のメンバーである70代から90代のシニアがペアを組み、プレイしました。日本企業の駐在員の親と一緒に米国生活を過ごす子供達は日本に住むおじいちゃん、おばあちゃんと同じように優しい皆さんとの出会いがとても嬉しかったようで、プレイの後、ペアを組んだシニアの皆さん一人一人にイラスト付きのお礼の手紙を送りました。

シニアの方も、自分の孫は英語だけで日本語を話さないため、会話が深まらないのに、今回は違ったようです。「日本語だけの子供達と遊ぶなど、遠い昔の忘れられていた記憶で、すごく新鮮さを味わう体験でした」とか「最近小学生の子供達と触れ合う機会もないので、プレイしながら色々お喋り出来て、本当に楽しかった。自分がと

ても優しい気持ちになったのを感じました。また太陽の光を浴びて骨や筋肉に良いビタミンDも一杯貰えたみたい」とか、好意的なコメントを多く頂きました。

今回は西大和学園カリフォルニア校と私が代表を務めている「チョッピリ思いやりの会」の共催として開催し、チャランポランの会の皆様にご協力頂いて実現した企画でした。企画の名前は「おじいちゃんおばあちゃんとお友達になる会 — グラウンド・ゴルフ」でした。チャランポランの会からは運営委員の宮里カツさんや会員のコール純子さん等、そして「チョッピリ思いやりの会」からは大原フランクさんを始め、皆さんに準備や運営にご援助頂きました。

因みに「チョッピリ思いやりの会」はふと目にしたり、気づいたりした他者への思いやりをすぐ実行しようというだけの会です。細かい会則や入会費、年会費なども無い、極めて自由で気楽でいいかげんな会です。自分も会員と自称する人々がその時々勝手に参加する会です。現在はこのシニアの健康長寿に役立つグラウンド・ゴルフをなるべく多くの皆さんに知って欲しいと努力中です。今回の企画も自称会員の皆さんに一言お伝えしたら、バタバタと話が進み、今回の成功裡に終わりました。今までも講演会や相談会や茶話会などが開催され、とても楽しい時間を過ごせました。しかし、基本的には日々の生活の中で、ちょっとした親切を面倒くさがらず、引き延ばしせず、恥ずかしがらず、すぐ実行しようと言うのが会の趣旨です。もし「グラウンド・ゴルフ」や「チョッピリ思いやりの会」にご興味がおありの方はいつでも遠慮なくご連絡ください。ありがとうございます。

鶴亀 彰 (310) 741-1741

akiratsurukame@gmail.com



ジムのクラスに女性ばかりなのは？！

女性脳と男性脳の違い

小倉ニーナ トーレンス在住

私は近くのジムで、健康保険が支援する Silver Sneakers という無料のクラスに通っていますが、最近、男性と女性の活動の仕方がかなり違うと気になるようになりました。

ウィークデイの午前中は、もっぱらリタイヤしたシニアばかりが目立つ（若い人はお仕事中）のですが、重量挙げや道具使った一人用マシンに向かっているのはほとんどが男性ばかり。一人でうなりながら、黙々とマシンの数値目指して挑戦してますね。

それに対して、グループのクラスで音楽に合わせてダンスをしたり、エクササイズするのは98%が女性。たまに参加してる男性はワイフに連れられているおじいちゃまです。予定時間より早くに席取り（Silver Sneakersのクラスでは危険防止のため、各自椅子を確保する）を始めるころは皆さんおしゃべり談議に花を咲かせて、それは笑い声いっぱい楽しんで。自分の孫の自慢話から、ドクターストップ掛けられた食事の話まで、女性の話題にはそれはもう限りありません。「女性のみ」と制限をかけているはずではないのに、いったいこの違いは为什么呢？

そこで、AIの解説に頼みました。するとAIは女性脳と男性脳が行動や好みの違いを説明してくれました。男性は筋力向上、数値目標、個人競争を目指すのですが、女性は人とのつながりを重視して、グループ行動、協調、感情共有を優先するとのこと。そのため、ジムの中でも仲間とのクラス参加、交流する喜び、一緒にやる楽しさを優先するのだそうです。又、ストレスを感じた時の行動もかなり違いま



す。男性は何かストレスを感じると、一人になり、黙ってしまい自分だけで問題解決しようとするのに対し、女性は誰かに、自分の心の内を話し、共感を求めて、人とのつながりを強めたいと思うのだそうです。そうか、昔からおばちゃんたちの井戸端会議の話は聞くけど、井戸端おじちゃんはいないようだねえ。男は常に一匹狼を好み、自分一人で社会に立ち向かおうとする動物なのかなあ。

シニア時代になった我ら夫婦間でも、話はずれるし、イライラするのは何なんだーと長く思ってたんだよ。ワイフの方は「今日こんな出来事にであって、x x xさんはこんなこと言ってたのよ」と話しかけるけど、旦那の方は「それで、何が言いたいのか」とまるでそっけなくて話は中断！私ら女性はその時の気持ちを聞いてほしいだけと思ってるのに、旦那達ときたら、結論だけ聞けばいいと思ってるからねー。だから、日帰り旅行なんかでも、旦那を家において、女性だけのほうがおしゃべりが弾んで楽しいということになるんだよ、まったく！

AIは更に解説する。これは、はるか人間が誕生したころの男性脳と女性脳の形成にまでさかのぼるらしい。男性脳は、狩猟時代に一人で道具操作をし、他人と競争までして、効率よく獲物を獲得するのに喜びを感じたらしい。しかし、女性は宿命的に子供を生み育てるという役目から、仲間の助けと協調のグループ行動を重視する脳に育成されたとのことである。

まあ、そんな違いを理解したうえで、シニア旦那とも（ジムに誘っても知らん顔）付き合っていかななくてはならんかなあ。さあ、今朝も朝飯抜きの旦那をおいて、ジムに行ってください！



70代後半のシニアたち

（写真はともに Google Image から）

アーバイン・シニアセンター

當銘貞夫・愛子 アーバイン在住

先日5月23日以来、オレンジ・カウンティのアーバインでの生活が始まった。



Irvine Senior Center

ジャクージとプールがいつでも入れて、日々の疲れを癒すのにとても便利であり、さらにここには緑ふんだんの芝生と木々のこぼれ日が目にとても優しい所であり、近くをサンタアナ・リバーが流れて、そよ風が吹き抜ける。

人工の大きな湖が近くにあり、高級な家屋がそのあたりを囲んでいる。池には魚も放流してあるが、釣りはできない。そのような高級な家に住むことは生涯を通してありえないが、しかしそのあたりを散策することは自由である。

私は女房と二人してよく「アーバイン シニア・センター」でよく食事をする。

週に2回か3回に及ぶ。そこでは月曜日から金曜日まで昼食が食べられる。まあ、味はそんなに良くないが、ほとんど「健康食」となっていて、余ったら持って帰れる。いろんな趣味の運動や競技、ダンス、ペインティング、卓球、テニス、音楽、マージャンなど色とりどりだ。まったくフリー（ノーチャージ）ではないが、多少のお金（各自4ドル）は用意しなければならない。

参加者の顔ぶれを見てみると、白人、イラン系、スパニッシュ系、中国系、コリアン系など様々だが、日系人にはまだお目にかかっていない。

このセンターは川を隔てて向こう側にヤマハ・ミュージック・センターが見渡せる。



開放的な広いパティオ

過去と現在、日本とアメリカをつなげること

橘 婦美子 San Diego

36年前、日本にいた頃は仕事自体に不満はありませんでした。ただ、渡米後の人生を振り返ると、当時の自分の在り方が障害になっていたように思います。「日本でおしとやかな人は、アメリカでは生き延びにくいよ」と言った知り合いも、志半ばで癌に倒れました。すべてが繋がっていると確認し、意味を持たせたい。その思いで仕事を辞め、かつて日本で打ち込んだ創作に戻りました。しかし年齢を重ねた今、出版は難しく、方向性を変えました。アメリカで失ったものは大きい。仲間世界に散り、最重要な人たちも志半ばで世を去りました。それでも過去と今を繋ぎたい。その願望は、再開した音楽でも一層強くなりました。

1980年、母を亡くした頃に書いた詩がカナダの雑誌に載り、後に友人の作曲家がオペラにしてくれました。30年間静かだったその曲を、ピアノソロで弾きたいと願い、難解な曲を移調、アレンジしてくれる先生を探しました。この春、自分の曲として弾けるまでに至り、YouTube Momo channel: Lead Me to Heirin-Ji temple 1980-1988-2026 May 24, 2026 として公開しました。

二十歳ごろ、イギリスの詩人の詩に曲を付けやモノがあり、今それに命を与えています。こうして過去と今を繋ぎ、人生に意味を持たせたい。過去に発表した英詩や自分の作品に一つずつ曲を付け、「今も大切な時が繋がっている」と実感したいのです。36年を経て、ようやく日本とアメリカが私の中で繋がりました。



イメージ（本文とは関係ありません）

アメリカを知りたければ

森田のりえ カリフォルニア在住

ラスベガス市中からチャールストン通りを西へ30分程車で走った。すると、真正面にレンガ色の山が見えてきた。上部はレンガ色、下部は白色。隣の山は色が逆になっている。まるで搗きたてのお餅が急に固まったような岩山である。



Red Rock Canyon (Google Image)

「ここがレッドロック・キャニオンです。地質学的にも他に例を見ない珍しい場所です」

若い頃、ラスベガスの国土管理局に勤めていた同行のKさんがいった。

ビジター・センターで展示物をみてから案内書をもらう。以前ここは国定リクレーション・エリアだったが、地質、植物、遺跡、歴史などの各専門家が調査をしてレポートを書き、1990年に準国立公園と格上げになり保護されている。その時、地質学を担当したのがKさんだった。

何十万年という膨大な時間をかけて造山運動がおき、地球の表面が圧縮され若い地層がじょじょに下に潜り込んで古い地層が押し上げられた結果、逆になったそうである。大自然のダイナミックな地層のうねりに、私は驚嘆するばかりだった。岩山に登っている人がいる。ここはハイキングトレールもあり、アメリカ先住民の遺した岩絵もある。車から降りて公園内を歩いた。サインもない。石ころの道から灌木をかき分けて土手を上がると、柵があった。数人の見物客がいた。黒い岩肌を削ったような抽象画らしき絵と、掌に塗料を塗り岩にペタッとつけたような朱色の手形が四つあった。「岩を削って描いた絵をペトログリフ、塗料を使って描いた絵をペトリグラフ」と、Kさんが教えてくれた。人間は生きた証がほしくて絵を描いて遺そうとしたのか、それとも祈りなのだろうか。

溪谷が一望できる丘に登った。雄大だ。

「アメリカを知りたければ、大自然が保護されている国立公園へ行きなさい」と、日本からきた人にKさんは話すそうである。「まず広さを体感すること。国立公園内にはプライベートな店や施設がなく、聖区域のような感じを受けるはずです。雄大な自然に接すると、人間以上の何かを感じさせ崇高な気持ちになります。大自然は私たちにいろんなことを教えてくれます」。

カジノで遊んだ後、近くに小規模のグランド・キャニオンがあるので立ち寄って欲しいと・・・。



熊本地震で気づかされた3つの事

古木 裕子 熊本県在住

最大震度7が2回発生した熊本地震で、私は3つの気づきを得た。**1**つ目は水の重要性である。ストックはもちろんのこと、湧水や川のある場所を再確認すること、泥水を飲み水に変えるサバイバル技術を習得することである。**2**つ目

は、家の中の物を最小限にすること。今から約850年前、約10年間で5回の災厄に見舞われた



鴨長明が行き着いたのは究極のミニマリストであった。僅か4.5畳、高さ2.1mの方丈の庵は、組立て・移動式住居であり、牛車2両分に収めることができた。真に必要な物とそうでない物を見極める目と、何事にも執着しない身軽さは学ぶべきものがある。

ところで15年前に発生した東北大震災の追悼式で、男子生徒が涙ながらに語った言葉が頭から離れない。

---人間が作るものは、こんなにも脆いのか!!---

私は、コンクリートの割れ目から生える草を目にする度に思う。人間は、この世をつくり給うた創造主には到底及ばない。これが**3**つ目の気づきである。

地震後、別れたカップルが多いと聞いた。その逆もしかり。究極の状態に追いやられ、良くも悪くも本性が露わになったのだろう。地震に限らず、災害とは「良薬口に苦し」かもしれない。命の大切さ、人の温もりや繋がり、あらゆる物事の本質が否が応でも浮き彫りになる。それらを改めて突きつけられた時、人は謙虚さを覚えるのではないか。ここに、この世の真髄が宿っているように思えてならないのである。



写真

(上) 全壊した家

(左) 崩落した道路

(撮影：長尾マサキ)

小学生のたーちゃん

成瀬隆子 Rancho Palos Verdes, CA

保育園に入る前は、姉と一日中一緒にいられるからといわれ、私はワクワクしていた。しかし、母が私の手を離して世光プロテスタント教会保育園長である榎本先生にあずけようとした時に、私は大泣きした。榎本園長は、実家では父親から抱きしめてもらえなかった私を、やさしく抱きしめてくれた私の理想の父親像で、それを私は今でも覚えている。母は「あんたは大泣きして、小さな手で私の腕にしがみついて離さへんし困ったわ」と懐かしそうに語った。

私が保育園に入った 3 歳の時、母は京都の三条京阪駅近くのナイトクラブでホステスとして働き始めた。妹の好美がまだ 1 歳、雄子が 4 歳の頃。家の近くに住んでいた 50 代の乳母さんが、父が帰宅するまでの数時間私たちのお世話に来てくれた。その方は私たちの世話をよくしてくれたが、私は毎晩母が恋しくて夜中まで待っていたこともあった。母の仕事の休みは、年にお正月の元旦と 1 月 2 日の二日間だけだった。休みの間は機会があるたびに、私は母の着物の袖から見える腕に触れて、その腕をしっかり掴んで赤ん坊のようにぴったり寄り添っていたのである。3 姉妹の中で私が一番母の愛を必要としていたのかもしれない。それに私は 2 人の姉妹に比べて自分の欲求を表現するのが得意だった。よくしつこく母に、「なあーなあー」と言い、自分の欲しいものをねだっていた覚えがある。母は、1 月 1 日には家の近くの神社に連れて行ってくれたり、美味しいお正月料理を作ったり、トランプをして遊んでくれた。私は「時間が止まってほしいな。ずーっとお正月が続けばいいのにな。それやったら、お母ちゃんは夜に仕事に行かなくても、私らと一緒にいられるしな」と言って母を困らせていた。

1 月 2 日は恒例の銭湯に行く日で、小学生の私たちは母と一緒にいくのを毎年心待ちにしていた。母は、お正月には新しい下着や普段着の中でもかわいい服を用意してくれた。3 人の娘の喜ぶ姿を見るのが何よりも楽しそうだった。キーンとした寒さの中を、速足で 4 人仲良く引っ付きあっては、ケラケラと笑いながら銭湯に行ったものだ。私たちは、誰が新年に一番湯に入れるかを競い合い、銭湯に入る前

から走りながら我先にと服を脱ぎ始めた。お正月に一番湯に入ってきたきれいになると、一年中良いことがあると私たちは信じていた。

信じていたといえば、母はよく、「トイレの掃除をすればするほどべっぴんさんになるんよ」と言っていた。私は、本気でそれを信じていたのでいまだにトイレ掃除をよくする。

お正月のお風呂屋さんには、沢山のゆずがはいった袋がお湯に浮かんでいた。私たちは両手でゆずの袋を鼻に近づけ深呼吸して、「あーええにおいやわー！」と香りを堪能したり、ゆずの袋をモミモミしたりして遊んだものだった。私はというと、近所の知り合いの人が体を洗っているのを見かけると、声をかけて背中を洗い肩をマッサージしたりしていた。

「おばちゃん、元気そうやな」「あー、たーちゃん気持ちええわ、あんた上手やな。おおきに」と言うような会話を楽しみ、おばちゃんたちの幸せそうな顔を見るのが好きだった。子供の頃から人と話したり、人を気持ちよく幸せにするのが好きだったのである。大人になってカイロプラクター・鍼灸師になったのが自分なりに納得できる。お風呂上がりには、大好きなアイスクリームを食べるのが何より楽しみだった。

最愛の母との 2 日間、私たちは最高に幸せだった。母が仕事に行く時は、誰かが必ず、近所の京阪桃山駅まで母を見送るのが常であった。電車に乗った母に懸命に手を振った。それは日没頃で、母を乗せた電車が賑やかな遮断機の音とともに見えなくなる。私はオレンジ色の夕日が沈んだ後の差し迫る暗闇を背に、母のいない家に帰った。夕日を見るたびに、そのあとの暗闇の中に母が消えてしまうかのようで、悲しくて不安な気持ちに襲われていたのがいまだに忘れられない。そんな子供の頃は夕日が嫌いだった。

(続く)



小学生の成瀬隆子

十一面観音像となったドナー

～ある地方紙の記事を読んで～

2012年(平成24年)10月1日(月曜日)

総合・論説

大迫 京子 Torrance, CA

「息子が7人の患者の中で生き続けていることが心の支え、そう思わないと生きてこれなかった…。そう言いつつも彼女が体から絞るような声でつぶやいた。「38歳まで育てたのは何だったのだろう…」と言った彼女の言葉が忘れられない。

随分前に胎内記憶の研究第一人者である池川明の著書「胎内記憶」を思い出した。子供は生まれる以前に「目的」を持って、しかも親を選んで生まれるという。

息子さんはきっと臓器提供者になるという「目的」を持ってE子さん、あなたの元に生まれて来たのではないのでしょうか…。あの時、「母さん、僕はドナーになるのだから後を頼むよ、実現してくれよな」。その息子さんの心の叫びがE子さん、あなたがそのような状況の中でドクターに「何か使える臓器はないでしょうか」と呟嗟に出た言葉だったのではないのでしょうか。



取り憑かれたように一週間かけて父親が彫ったという十一面観世音の木版画…。「お父さん、僕はお父さんの彫ってくれた十一面観音像に宿って、十一面の顔であらゆる方向を見て人々の悩みや苦しみに寄り添って一人残らず救済するよ。僕ならその中にずっとずっと生き続けるからね」というメッセージだったのではないのでしょうか。

息子は生き続ける

本県の企業に勤務していた県北出身の男性(当時38)が2011年1月、くも膜下出血で赴任先の前橋市内で倒れ、臓器移植法に基づく脳死判定を受け脳死ドナー(臓器提供者)となった。財布の中にあつた意思表示カード。摘出された臓器は無事、全国の患者7人に移植された。その約1年後、県内で初の脳死ドナーが現れた。「息子が患者の中で生き続けていることが心の支え。もっと多くの人に脳死を理解してもらいたい」。両親はそう言う言葉で言葉を詰まらせた。1日から臓器移植普及推進月間が始まる。(荒井克己)

県内出身 脳死ドナーの両親

きょうから臓器移植推進月間

突然倒れ、救急搬送された。くも膜下出血だった。両親の到着直後、脳の動脈が再び破裂。助けられず悔しいです。涙を流しながら主治医が言った。ぼうぜんとする母(63)は以前、長男と医療関係のテレビドラマを見ていた時の会話マを思い出した。「おふくろが脳死になったら、俺が(承諾書に)署名するよ」すぐに母は主治医に申し出た。「使える臓器はありませんか」。父は深く頭を下げた。臓器提供後、日本臓器移植ネットワークを通じて患者から何通も手紙が届いた。長年病

「命の引き継ぎ」理解を



長男の遺影が飾られた祭壇に手を合わせる両親

気に苦しんできた30代女性は今、夢を膨らませる。10歳未満の女兒は小さなお札の手形を送ってきた。感謝の言葉の数々に、息子の「生」を感じる。長男が望んだ脳死下の臓器提供。両親に後悔はない。「命の引き継ぎは大切なこと。も

愛犬とグランピング

古口友紀 ハモサビーチ在住

ポッドキャストでモンゴルの大草原に暮らす遊牧民の話聞いた。見渡す限りの草原を馬で駆け抜ける暮らし。その情景にすっかり魅了され、「モンゴル大草原で乗馬をする」が新たな夢になった。とはいえ現実には、仕事に追われ、家では老犬の介護の日々。海外旅行どころではない。そんな時ふと『ライトハウス』で読んだキャンプ、グランピングの特集を思い出した。「これなら愛犬も一緒に行ける！」と調べると、憧れだったビンテージキャンプトレーラーのサイトが空いている。迷わずその週末を予約した。

土曜の朝、トレジョで夕食の食材を買い込み、頭の中ではすでに豪華なキャンプディナーが完成。相棒と愛犬を乗せて出発した。途中、海辺の町でランチを食べようとPCH沿いのおしゃれなレストランへ。駐車場も空き、パティオ席まで空いていて「今日はついてる！」と思った瞬間、「犬はサービスドッグのみ」の張り紙…。泣く泣く In-N-Out でランチ。でもパティオには犬連れも多く、うちの老犬もおばあちゃん犬と仲良くなり、結果オーライだった。

Freeway 405 は大渋滞で予定より遅れ、ワイナリーやラベンダー畑へ寄る予定だったが時間切れ。代わりに手前の街 Bonsall のワインショップで地元 Fallbrook 産のロゼと赤ワインを購入し、夕食への期待がさらに膨らむ。到着した Split Rock Camp には、丘の上に憧れのビンテージトレーラー。静かなサイトからはのどかな景色が広がっていた。さっそく愛犬と探検へ。普段はノロノロ歩きのシニア犬なのに、この日は別犬のよう。夢中で匂いを嗅ぎながら走り回り、自然の力に驚かされる。人懐っこいやぎの群れにも遭遇し、まるで奈良公園の鹿のようだった。

相棒が焚き火を起こしている間、私はワイン片手に夕食作り。フランクステーキを焼き、愛犬用を取り分けてからアウトドアスパイスほりにして味付け。シーザーサラダにのせ、プチトマトとアプリコットを添える。皮付きトウモロコシはアルミホイルに包んで焚き火へ。自然の中で食べるだけで、どうしてこんなにも美味しいのだろう。



人懐っこいシカ

ワインも2本すっかり空になり、ランタン片手に水場へ向かったものの、昼間覚えたはずの道で迷子に。ランタンは足元しか照らさず、方向感覚はゼロ。

昔の人は提灯ひとつで夜道を歩いていたのだから大したものだ。諦めて相棒を大声で呼ぶと、静かなキャンプ場によく響いたらしく、すぐ迎えに来てくれた。

耳に聞こえるのは風と薪のはぜる音だけ。相棒のギター演奏を BGM に過ごす夜は、何より贅沢な時間だった。翌朝は濃い霧で、まともトイレへ向かう途中に迷子。苦笑いしながらコーヒーを淹れ、果物と野菜だけの朝食を楽しむ。その後もヤギたちと遊び、渋滞を避けるため早めに帰路についた。

モンゴルの大草原はまだ遠い。でも、老犬と一緒に自然の中で過ごした旅は、忙しい毎日に忘れかけていた心の余白を取り戻してくれた。夢は遠くても、一つ一つの小さな冒険こそ、人生を豊かにしてくれる。

「グランピング Glamping」とは、「Glamorous（グラマラス）」と「Camping（キャンピング）」を組み合わせた言葉で、英語で“魅力的な、華やかな”などを意味になるためイメージとしては“魅力的なキャンプ”という意味になります。

グランピング施設では、キャンプ用品や食材、食事はあらかじめ用意されており、気軽に豪華なキャンプを楽しむことができます。



赤ワインと仮面女 その1

宮里 かつ Torrance, CA

ロサンゼルス国際空港到着待合室に一時間以上も待つ老紳士が出口の一番前で待っていた。OZ202便は福岡空港発韓国経由にて午前10時20分に到着していたが、午前中ロサンゼルス国際空港に到着のフライトが沢山あり入国検査、税関検査を受けて出てくるには一時間以上は掛るので、まだか、まだかと心待ちにして出てくる人を見逃さず見ていた。

一団の集団の中にゴルフバックが見えたので出口近くに来るまで友人を待ち、大きく両手を上げて合図を送った。

「桂子さん、お疲れ様、ようこそロスへ！」

「本当にロスに来ました。お世話になります」

郷田勉は13本束にした赤い薔薇の花を渡してハグし、頬を相手の頬に近づけると、山下桂子は一瞬身を反らした。

「ようこそロサンゼルスへ！」

「お言葉に甘えて本当に来てしまいました。三週間お世話になります」とお互いに挨拶を交わした。

「夏も終わり快適な気候になる南カリフォルニアです。これから高速道路を走り、25分前後で我家に着きます」。

山下桂子と郷田勉はコロナ禍以前よりラインを通して繋がっていたが、時には数ヶ月もコンタクトがない時もあつた。郷田が日本を訪問した2023年に博多の中洲で会食をした事はあつた。

数寄屋門風作りの料亭で日本酒と和食を堪能した。桂子は純米酒を好み、生いか、鯛の兜焼きなどを楽しむ食通であつた。和食店を出て郷田の好むホテルのワインバーへ立ち寄り、赤ワイン、メルローで再度乾杯し一夜で急に親交を深めた二人である。

然し、それ以上の関係はなく、単なるライン友達であつた。

「さて、着きましたよ！」

「わー、素敵なコンドミニアムですね！」

郷田のコンドはレドンド・ビーチ市で海沿いの洒落た2LDKのコンドであつた。

「こんな素敵なコンドに一人とは贅沢ですね！」

「いやいや、ここは豪華ではないが、静かでどこにも近くて便利だし、兎に角自然を楽しめるので好きなんだ」

「桂子さんはこちらの部屋を使ってください」と少し波が見える西向きの部屋を案内した。桂子は満足した様子で窓から海を見ながら安堵した様子であつた。

桂子はワインも好きなので、住まいから約90マイル強、車で約100分ドライブするとテメキュラワインカントリーがあり、数日後に二泊三泊の小旅行をした。

「さて出発するか？」

「はーい、嬉しいなあー」

「私、ワインは飲むけどワイナリーに行くのは初めてなので嬉しいです」

Freeway91番を東に45マイル走り、Freeways15番に乗り換え、更に45マイル走り、ランチョ・カリフォルニア通で降りて東に走るとワインカントリー。道路の両サイドに40数軒のワイナリーが見えた。

「さあ着いたよ、ワイナリーだよ！」

「わー、写真で見たワイナリー！これがワイナリーなの？」

「何だかこの風景はヨーロッパに来たみたいだねー」

初めて訪れたワインカントリーに山下桂子は感激した様子。

ワインカントリー入口に位置する、日本人にも馴染みあるCallaway Wineryへ立ち寄った。

勉はこのワイナリーに頻繁に来ているので勝手知った振る舞いで、試飲チケット二枚、50ドルを購入してカウンターへ。

「このチケットにて6種類のワインを試飲できるんだ。桂子さんは何を試飲しますか？」

「私は白ワインを試飲するわ。そうね、シャルドネ！」

「じゃあ、僕は赤ワインのピノ・ノワールにするよ！」

金曜日のためかカウンターには十数名の男女、いや女性のお客の方が多くいた。

次はソムリエお勧めのワインをグラスに入れてもらいバルコニーへ出た。一面のワイン葡萄畑を眺めながら喉越しに転がり込んでいくワインを味わった。

「勉さん、こんな素晴らしいワイナリーに連れてきてもらい本当にありがとう。今までとは違うワインの世界を楽しめて最高よ！」

二軒目は、勉が加入している会員制ワイナリーに案内した。

少し高台にそびえるヨーロッパ風の建物のRobert Lorenzoワイナリーへ。360度見渡す限りの葡萄畑、整然と並ぶ葡萄の棚。

「桂子さん、こちらがメンバー専用の部屋です」

「えー、ここも素敵ねー、映画の中の一場面だわ！」

「ここはね、ワインも勿論おいしいが、ホームメイドの肉団子とイタリアン風ソースが美味しいよ。どうですか？」

ワインも、肉団子も、また景色も申し分ないワイナリーで桂子は超満足、ほろ酔い気分であつた。

ワイナリーが経営するホテルに泊まる事にした。内装、置物、絵画は新婚さんが好むデザインの部屋。ホテルの廻りは全て葡萄畑が山の裾まで続いており、空は青空、空気は澄みきり、星座も楽しめた。

夜はテメキュラのオールタウンに繰り出してワイン専門レストランに入った。ワインセラーには天井から床までところ狭しと沢山のワインが積まれていた。ソムリエに当店お勧めの白と赤ワイン、本日の各種チーズ・生ハム入りのおつまみを注文した。

「今日は何回目の乾杯かなあー」

次号に続く

昭和の風の中で 大学時代の断章

近藤 敬 フラトン在住

私は、六〇年安保に揺れる時代を、一人の大学生として生きた。

京都を訪れるたび、あの夕方の光は不意によみがえる。

河原町通りに人があふれていた。店先のガラスに西日が反射し、通り全体が白くまぶしく見えた。私はその中を歩いていた。前に行く人の背中から離れぬように、流れに押されるように歩いていた。

一九六〇年、いわゆる六〇年安保のころである。当時、政府は日米安全保障条約の改定を進めていた。冷戦の時代である。アメリカとの同盟関係を維持する必要があるという政府の説明も、私にはまったく理解できない話ではなかった。

しかし国会では強行採決が行われ、多くの人が反発した。国会の混乱を見ながら、多くの人が何か釈然としない思いを抱いていた。

大学では授業放棄が行われ、教室の内外で学生たちは議論し、政治が語られていた。

私もまた、その空気の中にいた。

いま振り返っても、私は左翼思想に傾倒していたわけではない。社会の仕組みを深く理解していたとも言えない。ただ、新聞やラジオから伝わる国会の混乱や、大学で交わされる議論を見聞きするうちに、若いなりの正義感が刺激されていたのだと思う。

何かがおかしいのではないか。

そんな漠然とした思いに背中を押され、私も街へ出た。

遠くでシュプレヒコールが波のように起こり、また引いていった。言葉ははっきり聞き取れなかったが、その調子だけが耳に残った。人々の声は重なっていた。しかし決して一つではなかった。条約に反対する者もいれば、民主主義を守りたいと思う

者もいた仲間に誘われて来た学生もいただろう。皆が同じ思想を持っていたわけではない。

それでも人々は集まった。

「何かがおかしい」

「なぜ、こんなに大勢の人が集まっているのだろう」街頭デモでは、ときおり肩が触れ、押され、また押し返される。その感触が妙に印象に残っている。肩が触れるたびに、自分がひとりではないことを感じた。

ただ、私には何が正しいのかよく分かってはいなかった。

ただ、何か大切なことが起きているような気がしていた。

だから私は、その流れの中に身を置いていた。

私はただ歩いていた。前に行く仲間の背中を見つめながら。

その背中が、いまでも時折思い出される。

思想としてではない。政治的主張としてでもない。人が社会と向き合おうとした若い日の空気としてである。

それでも京都の夕暮れを思い出すとき、私の中によみがえるのは理論ではない。

河原町通りで肩を触れ合わせた、あの若い日の感触である。

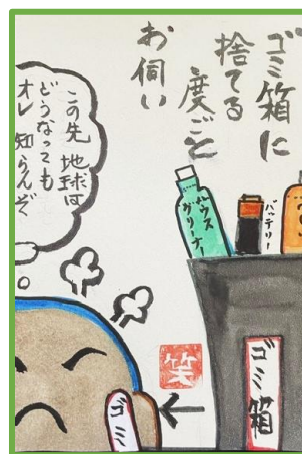
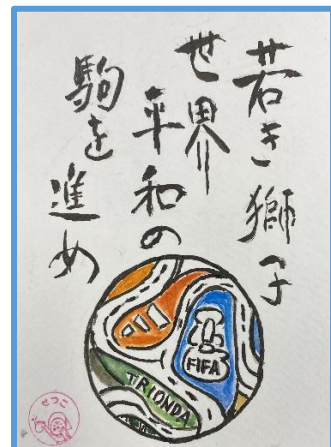
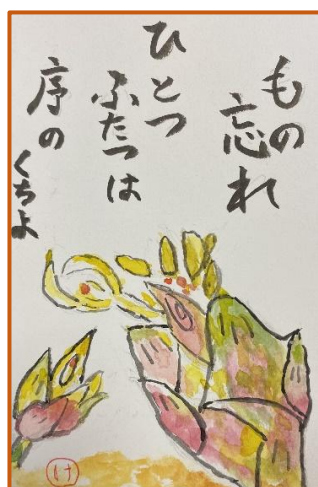
何を成し遂げたわけでもない。何が正しかったのか、いまでも分からない。

ただ、あの夕方の光の中で、私は自分の足で歩いていた。その感触だけが、今も私の中に残っている。



京都の学生運動（朝日新聞）

絵手紙川柳



「かわら版」 26号のお知らせ

1. 発行予定日: 2026年 12 月 15 日
 2. 特集・寄稿: ■ 世界の日系社会/シニア社会
■ 私の人生の転機 (400 字或いは 800 字数)
■ 私の健康の秘訣 (400 字或いは 800 字数)
■ あの町、この町、あなたの街 / 旅日記
■ みんなの広場 (お便りコーナー)
 3. 原稿締切: 2026年 10 月 20 日
 4. 原稿を送付する場合: 必ず「氏名」「City/State」「電話番号」「Email アドレス」をご記入ください。
注: コンピューターを使えない方は手書きでの寄稿也大歓迎です。原稿用紙も送りますよ……
-

「かわら版」の継続とお願い・ドネーション

「かわら版」は全てが私たちの無償報酬にて運営されており、その財源は皆様からの「ドネーション」にて賄っております。この会は連邦政府からの NPO 非営利団体として認可(501.C.3 FEIN-2811563)を受けております。

支払先: CHECK: CharanPoran USA Mail to : 4733 Torrance Blvd., #768, Torrance, CA 90503
ZELLE: CHARANPORANUSA/ pappitom@gmail.com

お願い: 皆様から沢山の原稿を頂き、それによりかわら版の製本が成り立っております。寄稿、投稿して頂く場合のお願いがあります。記事の内容に制限・規制はありませんが、政治、宗教或いは誹謗中傷的な内容は差し控えて下さい。

Funding for the project is partially supported by KEIRO

編集後記

スポーツは人種を越えて楽しめる/戦える人間社会に欠かせない運動である。平等に戦えるスポーツと言えど体格による差で日本人に不利なスポーツも数々あった。然し、幼児期以降の成長期における動物性たんぱく質の摂取増と栄養状態の改善が日本人の体を著しく改善させた。男性の身長は明治時代は平均 155cm、女性は 145cmが、2010 年代の身長は 171cm、女性は 160cmと飛躍的に伸びてきた。日本のお家芸である柔道、体操、ピンポン、アイススケートに加えて、近年は陸上の短距離でも活躍している。特に米国野球界では大谷翔平以下複数の選手が大活躍。女性のプロゴルフ界でも十数人の選手が常に上位の成績を収めているのは頼もしい。FITA World Cup 2026 でも日本のサッカーチームは我々に夢と希望を与えてくれた。今後もスポーツの世界に日本人選手の更なる活躍を期待したい。(かつ)

過去に発行した「かわら版」はホームページからご覧いただけます。

www.charanporanusa.org/page/kawaraban

チャランポランの会は、シニアの方々が生きがいを持って人生を楽しみ、健康で長生きすることを目的としています。シニアだからこそ言える苦言、提言、さらに社会奉仕まで 参加される皆様と一緒に考え、創り上げていく会です。風に揺らいているチャランポランな葉っぱであっても、その木の根っこは長い人生を歩んできた分、どっしりと深く広がっているシニアの木。その「シニアのシニアによるシニアのための会報誌」がこの「かわら版」です。今後のチャランポランの会と「かわら版」をどうぞよろしくお願い申し上げます。

www.charanporanusa.org



Redondo Beach



Hermosa Beach



Manhattan Beach Aquarium



Redondo Beach Sunset



Huntington Beach

Manhattan Beach:

カリフォルニア州のロサンゼルス郡にある都市。人口は3万5千人。ロサンゼルス国際空港に近い。海岸は砂浜で南のハモサビーチ、レドモンドビーチへ続く。「ビーチカルチャー」の色濃い地域で、内陸部の都市とは一線を画する。海岸沿いの住宅は非常に高額で、富裕層の住民が多い

Hermosa Beach:

マンハッタンビーチの隣に続くビーチ。庶民的なビーチである

Huntington Beach:

カリフォルニア州のオレンジ郡にある都市。人口は19万8千人。全長14キロメートルの海浜、温暖な気候及びサーフィンに格好の場所として知られている。サーフィン選手権が開催される都市、「Surf City USA」として登録商標された。又、プロのバレーボール協会が主催するビーチバレーツアーでも知られている

写真撮影・説明

会員 宮里かつ

